

# スナヤツメ

*Lampetra reissneri*

ヤツメウナギ科



撮影：瀬尾優二氏（流域生態研究所）

## 名前の由来

砂泥底に生息するヤツメの意。ヤツメは目の後ろに1列に並ぶ7個の鰓孔を眼に見立てて、本当の眼と合計してヤツメ（八眼）と呼ばれる。漢字名：砂八目

## 特定種

国レッドリスト（2007）…絶滅危惧Ⅱ類（VU）

（「道南のスナヤツメ個体群」が北海道レッドデータ…地域個体群（Lp）に指定）

## 形態的特徴

全長約20cm。内側の大きな歯は3対で、全て2尖頭であるとも淡色である。が、退化が著しい。体色は暗褐色で弱い金属光沢があるのが普通であるが、変異に富む。尾ビレと第2背ビレの両方

## 類似種と見分け方

カワヤツメ、シベリアヤツメ。

成体はカワヤツメが大きく20~50cmなのに対し、シベリアヤツメやスナヤツメは大きくても20cm程度。

スナヤツメの吸盤上の歯は先端が丸いのに対し、シベリアヤツメはとがる。

スナヤツメの眼はシベリアヤツメより小さい。

幼生（アンモシーテス）の尾ビレは、カワヤツメが黒、シベリアヤツメが淡色、スナヤツメが透明。



類似種、カワヤツメ

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
産卵期					■	■						
孵化期					■	■	■					
幼生期 (アンモシーテス)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
成魚期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
					産卵		産卵後死ぬ					

## 一 生

産卵期は5～6月（早いところでは、4月末から産卵する《妹尾優二》）。幼生（アンモシーテス）として川底の柔らかい砂泥にもぐって暮らす。

3～4年後の夏の終わりから秋にかけて成体に変態、昼は泥底の比較的浅いところにひそみ、夜は活発に泳ぐという。海に下らず川で越冬し、翌年初夏に産卵して死亡する。

（寿命は約4年）



スナヤツメの幼生。ヤツメウナギの幼生をアンモシーテスという

## 生息環境・分布

上～下流（妹尾優二）の水の澄んだ流れの緩やかな浅い細流の砂泥底に生息。幼生は淵裏の有機質が堆積するところに生息する（妹尾）。

幼生の越冬場所や隠れ場所として水生植物などが生えた河岸も必要だという。

成体は比較的大きな石の下や、落葉・落枝の下で生息する

## 食性

幼生（アンモシーテス）は底泥上・底泥中の有機物や珪藻類をろ過して食べる。変態後の成魚は何も食べない。

## 繁殖生態

産卵期は雪解け水のおさまる5～6月。カワヤツメより早く始まり、遅くまでおこなわれる。水温環境に左右されているのか、早いところでは4月末から始まっている。（妹尾優二）産卵場所は河川中流域の平瀬（淵尻）の小さな石の礫底。産卵の1ヶ月ほど前から体が2～3cm縮小して13

ことが多い（妹尾）。一生を川で過ごす。

**分布：**沿海州、中国北部、朝鮮半島に分布。

国内分布は、北海道～九州。北海道内では全域に分布。

十勝の河川に広く分布。下流域から上流まで生息している。溪流にある砂防ダムにも生息しているほどである。

～16cmになるという。1尾のメスに数尾のオスが追尾し、オスメス共同で河床に産室を掘る。オスがメスの頭に吸い付いて巻き付き、互いに体を震わせて放卵・放精をおこなう。卵は埋められる。水温19℃の時約10日でふ化。

## 他生物との関わり

幼生の越冬場所や隠れ場所として水生植物などが生えた河岸も必要だという。

## 興味深い話

- かんの虫の薬として利用されることがある。
- かつてヤツメウナギの幼生は、別の仲間（属）だと考えられ、アンモシーテスAmmocoetesとの属名が付けられた。現在ヤツメウナギ類の幼生をアンモシーテスと呼ぶのはその名残。

■十勝地方のアイヌ語では、ヤツメウナギ類を「ヌクリペ」と呼ぶ。

## 配慮事項

幼生期には、泥中の落葉などの有機物を食べるため、これらの有機物がたまる淵ができるような河川形態が必要。産卵場所として河川中流域の平瀬（淵尻）の小さな石の礫底を必要とする。

幼生の越冬場所や隠れ場所として水生植物などが生えた河岸も必要だという。

### 参考文献

「川の生物図典」奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸広・水野信彦・矢島稔・山岸哲 監修、(財)リバーフロント整備センター編集、山海堂、1996

「検索入門 川と湖の魚①」川那部浩哉・水野信彦、保育社 1989

「川づくりのための魚類ガイド」北海道河川環境研究会、(財)北海道建設技術センター、2001

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監

修、山と溪谷社 1989

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984

「北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書3 アイヌ語十勝方言の基礎語彙集 -本別町・沢井トメノのアイヌ語-」澤井春美(編・著)、北海道立アイヌ民族文化研究センター、2006

★妹尾優二：(株)エコテック、流域生態研究所

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類